

市民の安心と笑顔のために

No. 239 2021年2月15日 日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221/fax 218-5124

市都市計画審議会で田中市議が反対、コロナ危機体験「考え変わった」と市民委員が保留

1000億円道路計画の採択に 不同意3分の1

1月26日の札幌市都市計画審議会は、1000億円以上の血税をつぎ込む都心アクセス道路計画を承認するかどうか問われ、「コロナ危機のもとで、市民合意は得られない」と委員が次々に発言し、採決では委員の3割以上となる7人（反対1人、保留6人）が、採択に不同意を表明する異例の展開となりました。

■ 「保留の意思、国に報告を」「採決すべきではない」「反対意見書、検討を」と6委員が保留

「賛成と反対の他に保留もあってほしい。それぞれ何人で、だれかも議事録に残し、国にもその結果を伝えてほしい」…この日、複数の委員が審議会会長に要請し、提案が受け入れられました。

都市計画審議会の事務局も兼ねる市都市計画課によると、過去に採決の最中、保留と発言する例はあったものの、正式に「保留」の意思確認をおこなったことは近年ありません。

■ 田中市議は「白紙にすべき」と主張し反対

都計審委員で日本共産党の田中啓介市議は反対を表明。「事業費はもっと膨れ上がる可能性がある。コロナ対策にこそ予算をかけないといけないのに、なぜ1000億円道路なのかというのが市民の思い。一度白紙にすべき」と市民の声を代弁し、新たな感染症に備える街づくりを最優先にすべきと主張しました。

アクセス道路やめて

歩道や交差点改良や公共交通充実を

豊平区で右折信号機の設置が実現

昨年10月、市議団は道公安委員会に市内信号機の設置や改善など13項目を要望（要請する左から長屋いずみ、太田秀子、さとう綾の各市議＝写真上）。北海道警察を通じて今年1月、豊平区内で右折矢印信号機を設置すると回答があり、一歩ずつ前進しています。要望では東区北12条東7、8丁目付近の交差点（右写真）のよう



うに、歩道橋を利用できないベビーカーを押したお母さんや高齢者の横断が目撃される危険な所もあり、信号機や横断歩道の設置など引き続き取り組みます。



◆ 都心には、市電が似合う ◆ 市電プロジェクトと懇談

ループ化の次に「延伸」が課題となる市電について、党市議団は1月、「市電を守り再配置を進めるプロジェクト」と懇談。延伸計画の促進、低炭素社会が求められる街づくりについて意見交換。車を集中させ渋滞や環境悪化を招くアクセス道路ではなく、公共交通重視の街づくりで意見交換をおこないました（写真）。



このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。